

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300098		
法人名	合同会社カーム		
事業所名	グループホームかんまち		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459番地1		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300098-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた家に近づけるよう古民家を改修し、落ちついた雰囲気ホーム創りを目指しています。地域の景観に溶け込んだ建物同様、地域の方との交流を大切にし、入居者一人ひとりがその人らしく暮らしていけることを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、古民家に大改修を施し、畳や壁、天井張りも温もりが体感できる造りである。利用者は、落ち着いた家庭的な環境の中で、共同の作品づくりやレクリエーションを楽しみながら、安心して、穏やかな生活を営んでいる。また、家族とも信頼関係を築きながら、利用者の通院や理美容への同行、排泄用品などの補充を担ってもらっている。管理者は、職員に様々な研修機会を作り、人材育成に成果を上げている。また、管理者は職員と共に、利用者一人ひとりのニーズを把握し、思いに寄り添いながら、本人本位の暮らしの支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなが穏やかで笑顔で生活して過ごせるよう、毎日理念を利用者、スタッフとも継続して音読している。	理念を名札の裏に明記し、朝のミーティングで声に出して読み上げ、職員の意識を高めている。利用者が、地域の人々と日々関わりながら、笑顔で安心して暮らせるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には近くの神社まで散歩しており、途中近隣の方と挨拶したり、お話ししたりもしている。また、近所の方から野菜を頂いたり区長から市報なども届けて頂くなど地域の方が出入りもしている。	3名の職員が町内の住民であり、近隣と親しく交流しながら、野菜の差し入れなども、日常的にある。また、地域で開催するオレンジカフェに利用者と共に出かけたり、ボランティアとの交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飛騨市介護サポーター対象施設として登録し、ボランティア等を受け入れるようにしている。運営推進会議を実施、ご家族、区長、民生委員さんなど参加していただき意見交換などしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者・ご家族・市役所のかたなどに参加して頂き取り組みの状況など報告、意見なども聞いている。また課題等あれば毎月のカンファレンスで話し合い向上へと繋げている。	運営推進会議では、運営の現状とユニット増設計画を報告している。事故とヒヤリハットは、毎回議題に挙げて話し合い、直近の災害事例についても意見交換している。出席者全員からの意見を踏まえ、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、ホームの現状や活動報告し、助言してもらっている。また日常の出来事で分からないことあれば、市の職員に相談等連絡をとっている。	市の担当者へは、運営推進会議で現状を報告し、助言を得ている。ユニットの増設や指定申請、助成金の手続き方法を相談し、協力関係を築いている。職員は、市が開催する認知症サポーター養成講座を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全のため夜間のみ。日中については玄関の施錠せず、見守りでのケアを行っている。 身体拘束等廃止委員会を設置し、3ヶ月に一度委員会、前回会議では事業所全員対象の身体拘束研修を行う。	言葉による拘束を含めて、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束等廃止委員会を開催し、学習会を行ったり、職員は虐待・身体拘束についての外部研修も受講している。転倒の恐れがある人には、居室にセンサーマットを備えて予防に努め、玄関は、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が高齢施設における虐待対応研修に参加し、他の職員にも共有出来るよう会議・社内研修にて報告している。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もみえる家族や関係者への対応を適切にできるよう制度についての理解を深める機会を増やしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者または計画作成担当者が説明を行なって家族が納得していただけるようにしている。また、本人にも契約前にホームを見ていただき不安なく入居して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族にホームでの様子など話をしながら意見や要望を伺っている。運営推進会議では入居者とご家族と意見交換できる時間を必ず設けて意見や要望を集約している。	家族の意見や要望は、来所時に聞いている。排泄用品の補充の連絡や、停電災害の備えについての意見や質問があり、話し合いながら、改善と体制づくりにつなげている。ホーム便りには、利用者の写真付きで日々の様子を伝え、相互に信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているカンファレンスや毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞き運営に反映している。また医療や連絡ノート等を作り職員がいつでも意見出来るようにしている。	職員の意見や提案は、カンファレンスや個別面談で聞いている。業務担当制を用いて、イベントの企画も職員が交代で行っている。それぞれが責任を持って、やりがいのある職場環境を築けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にいろんな担当を割り当て、それぞれが責任とやりがいを持ち仕事が出来る環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の資料を職員に回覧し、本人が受ける研修があれば参加できるように勤務を調整し受講している。研修費についても法人負担としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、会合に出席している。また、他のグループホームを訪問して、サービスの質、ケアの向上等に向けた情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と本人と一緒に面談を行い、生活面や身体面の困りことや不安について細かく聞き取りを行いホームでの生活について丁寧に説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談ではホームの状況や運営などについて細かく説明しながら行い、不安などの聞き取りを行っている。また日頃から電話で連絡も取りあい要望などのもきいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力量を見極め、食器洗いや食器拭き、施設の畑での野菜の収穫などをスタッフとともに行うことで良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などの外出は家族にお願いし一緒に出掛けていただいている。運営推進会議の出席・日頃の面会についてもホームにいつでもきていただけるよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近隣の方に気軽に会いに来てもらえるよう努めている。家族の承諾あれば、自宅近くまでドライブなども行っている。	家族・親戚・知人が気軽に訪れている。また、オレンジカフェで知人に会ったり、馴染みの場所へも出掛けている。外食やかかりつけ医への通院、一時帰宅などは家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ居室からリビングに出てきて一緒に過ごすことが出来るように、レクリエーションや共同作業の時間を多くとっている。また入居者同士の関係を配慮して必要に応じてスタッフが間にはいり摩擦を避けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や関係機関からの問い合わせには柔軟に対応できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞き取りを行いながら、できることは継続できるよう、やってみたいことは少しずつでもできるよう支援し、日々の生活が充実するように努めている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や家族構成、趣味、習慣などを把握し、それぞれが、どのように暮らしたいのか、本音が引き出せるよう声かけをしている。意思表示が困難な人は、家族から情報を得ながら、表情や行動から思いを汲み取るよう努めている。	その人らしい暮らしを支える一助として、生活支援がマンネリ化しないよう、常に本人の視点に立ち、関心を寄せ、さらなる思いや意向の把握に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけで無く、日々の会話の中でも生活歴等を把握し、安心して生活が出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に基づく毎日の引継ぎ・毎月のカンファレンスを通じてひとりひとりの日々の生活リズムや心身状態等をスタッフ間で共有し、変化や気づきを記録に残し、有する力等の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人、家族の思いを実現できるよう話し合っている	介護計画は、本人・家族の意向を確認し、カンファレンスで話し合いながら職員のアイデアも取り入れ、計画作りを行っている。また、利用者同士がより良い関係を築きながら、共に身体機能を維持し、健康で暮らせるような計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望、意見、つぶやき等を日々の記録に残し、スタッフ間で情報を共有しながらサービスの向上に努め、また介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が利用者の居室に泊まることや食事と一緒にできるサービスを行っている。また家族と外出しやすいような雰囲気をつくっている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飛騨市の介護サポーター制度に登録している。 また、地域ボランティアの方も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行により、かかりつけ医へ受診してもらっている。また、看護師が同行できる場合は同行し、日ごろの様子、身体状況等を報告している。	利用者は、入居前のかかりつけ医を継続している。受診は家族が担当が、状況に応じて、看護師である職員が同行している。急変時には、かかりつけ医と連絡を取りながら、家族の指定する医療機関に受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気がつきがあれば、看護師に報告し対応している。必要に応じては家族に連絡し、受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している 退院前に院内訪問し、関係者から情報提供を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に 重度化した場合における(看取り)指針についての同意書を家族にいただいている。	契約時に、重度化や終末期の方針を家族に説明し、同意書を交わしている。段階的に、家族と主治医が話し合い、常時、医療行為のない場合は、自然な看取り介護に向けて、ホーム全体で支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講している 緊急時の対応マニュアルを整備し、関係機関への連絡方法など見やすい場所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練、通報訓練、消火訓練を定期的に行っている 災害時に必要な物資も順次整えている	災害訓練は、火災や浸水等、夜間も想定して実施している。避難場所は事業所近くにあり、浸水や洪水の場合はホーム内で垂直避難を行うとしている。今後は、停電に備える体制づくりを検討している。	他の地域では、台風による停電が深刻である。それを踏まえ、マニュアルの見直しと共に、地域や家族と連携した災害対策が行なわれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩ということを思い尊厳を損なわない声かけをするよう心掛けている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、常に笑顔で接している。声かけは、目線を合わせ、穏やかな言葉遣いに努めている。一人ひとりの声に耳を傾け、思いやこだわりを受け止めながら、傾聴を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを優先し、本人の能力に応じた働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や散歩など、その日の体調、気分をうかがい、無理なく過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に見合った服を着られるよう衣替えをもらっている。また髪が伸びた時などは、家族に連絡し、美容室など連れていってもらっている。また家族が本人の散髪などもされていることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節を感じてもらえるように、出来るだけ時季の食材を使えるように心掛けている。また食事の準備や食器洗い・食器拭きなども一緒にやっている。	利用者は、食事の準備や食器洗い等、出来る事を手伝っている。食事は、家庭的な味付けで品数も多く、食欲を誘うメニューを工夫している。食事中はテレビを消し、職員も一緒に食べながら、楽しい会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の活動量や体重の増減などに配慮し食事量等を調整している。献立を記録して栄養が偏らないように気を付けたり、夏場は特に熱中症に注意し、こまめの水分摂取に努め水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアにはスタッフが洗面台の前で見守りをし必要な場合は介助している 夕食後には義歯の薬剤洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導の声掛けをし排泄をうながしている。汚れ等多くある方についてはパットの確認をし、交換をうながして清潔で過ごせるよう支援している。	個々の排泄パターンに応じてトイレへ促し、排泄の自立につなげている。利用者の状態に合わせて、リハビリパンツとパッドを、適切に選択している。夜間も、利用者の希望や状況により、ポータブルトイレやセンサーマットを備え、排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜やヨーグルト等を提供したり、毎日の体操で体を動かし、自然な排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等に配慮しながら出来るだけ本人の希望される時間帯に入浴してもらっている。	入浴は、その日の利用者の気分や体調に配慮し、柔軟に対応している。入浴好きの人がほとんどであり、自立の人はドア越しに見守りながら、それぞれの習慣にそった入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室は自由に行き来出来、食後や昼寝も自由に行っている。就寝時には巡視をしながら部屋の空調を調節するなど良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤看護師が服薬管理をしているが職員全員が服薬内容、身体状況を把握できるように情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、針仕事、編み物、食事の準備、後片付け等、一人ひとりに役割を見つけ、充実した生活を送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの神社まで散歩に出掛けたり、季節に応じて桜見や紅葉見などにも出掛けている。また同じ地域の保育園の行事や市内の芸能発表会等にも出掛けている。本人にも行きたいところなども聞き、馴染みの場所などにも出かけている。	日常的に、近くの神社まで散歩をしたり、季節に応じて、桜や紅葉狩り、バラ園等へ出かけている。保育園の行事や芸能発表会で外出したり、オレンジカフェにも参加している。家族とは、通院や一時帰宅、美容院などに出かけている。	

岐阜県 グループホームかんまち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で少額を手元を持っている方もみえる ホームで現金を預かる場合には金庫に保管し出納帳にて管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参してみえる方もいる 希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、玄関、扉などは開け外からの空気・光を取り込んでいる。毎月の便りや入居者の作品など廊下に張り出しをしている。作品に関しては時期の物を作り季節を感じてもらっている。	玄関には、和紙の人形や生け花、観葉植物を飾っている。居間には、季節感のある貼り絵や塗り絵の作品を飾り、廊下に絵画や利用者の写真を掲示している。利用者にとって、古民家のホーム全体が、ぬくもりある居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、グループ分けができるようにしている 疲れた時などは居室で休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使用していた馴染みのものをもってきてもらい使用している。ご家族様の写真なども飾り安心できる空間になるよう努めている。	居室には、テレビや衣類掛け、手鏡などの日用品等、馴染みの物を持ち込んでいる。見やすいカレンダーも目線にある。家族の写真や鉢植えの花を飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		